

木崎夏期大学の創設者。成人教育の重要性を提唱。

平林 広人(ひらばやし ひろんど) 豊科光(とよしな ひかる) 出身
 (広人活躍した時代) 1886年(明治19年)～1986年(昭和61年) 享年99歳

明治 19	大正 4	5	6	10	12	13	昭和 41	61									
生豊 科上 川手 光に ま れ る。	長郷 北29 尋常 小若 学さ 校で 陸	言夏 期大 学開 設 提	う後 藤演 新動 平に とて め 出い 会た 方及	講木 崎夏 期大 学開	なる 会教 育呼 ばれ 嘱託 と社	平京 呼市 ば長 れ後 藤新	東京 市長 後藤 新平	関東 大震 災発 生。	下、 震災 復興 に	後藤 新平 の	間高 等学 校に 二	員養 成機 関「 国民 高等 学校 」に	デン マーク の教 育	に社 会教 育の 普及 に	関書 館後 、大 学で 講義 を講 義。	東海 大学 文学 部	老衰 のため 死去。 (享年 99歳)



平林広人の業績

- ①信濃木崎夏期大学の創設と成人教育の実践
- ②関東大震災の震災復興に尽力
- ③日本ボーイスカウト活動の振興
- ④デンマークの農政事情・農村文化の紹介
- ⑤デンマークの実学的教育機関「国民高等学校」の国内実践による農業人育成
- ⑥童話作家アンデルセンの作品研究・デンマーク語原典からの翻訳
 (「アンデルセン研究」「絵のない絵本」「アンデルセン童話全集4」等)
- ⑦東海大学北欧文学科での教育
- ⑧ヨーロッパの先進的な図書館システムを導入し、都立図書館の発展に寄与

「お前は人づくりをしるよ」父の教えが広人の生涯を貫く

父・広十郎(こうじゅうろう)は光の村議員や村長をしていました。広十郎は、犀川の治水事業、光城山の植林など地域の中で活躍していました。
 広十郎は広人に「山を治めようとしたり道や田んぼを作ったり堤防を造ったりしたがどれもだめだった。俺は民心を治めることをしなかった。お前は人づくりをしるよ。お前は人づくりで郷土や国を発展させよ。」と教えました。
 この父の言葉が中学に入ったころから広人の志として生涯を貫いていくことになりました。

成人教育こそが地域力向上につながる。～木崎夏期大学の創設～

松本中学校助教員、小学校教員を経て、29歳の若さで東筑摩陸郷北尋常小学校長になりました。

様々な書物を読み理想の教育を描いていた広人は、親に教育についての理解力がなければ、子どもの教育はできないと考えようになりました。

北安曇校長会の場で「子どもの教育のためには大人を教育しなければいけない」と成人教育の重要性を提唱。その後、雑誌「信濃教育」へ「信州大学の第一歩として夏期大学の開設を促す」という檄文を寄稿し、多くの人の支持を得ました。

運営資金の調達は、当時の通信大臣後藤新平をお願いすることにしました。後藤が長野に歴訪した際、長野から松本へ移動する汽車で面会の約束をし、資金調達の内諾を得ることができました。

大正6年(1917)、信濃通俗大学会設立。その「夏期大学部」として同年8月、木崎夏期大学が開講されました。当時、評議員として後藤新平、新渡戸稲造らがいました。



【後藤新平との面会にも大変な苦労が…】

当時長野-松本間で、午前2本、午後2本ぐらいしか汽車が走っていませんでした。また、長野-松本間の運賃は大変高く、一等車両で当時の運賃で約1円30銭(この値段で米8升買うことができた。現在の値段に換算すると約12000円)。三等車両の切符を買うのがやっとだった広人は、長野-姨捨まで三等車両で来て、姨捨で一等車両の切符を買い、後藤が乗ってくる汽車を待つことにしました。
 一等車両の運賃を支払うときは目玉が飛び出そうな思いをしたことでしょう。

【通俗大学会とは?】

後藤新平は、世界に通用する国民にするには、政治上の革新、経済上の発展、富国強兵だけでは不十分である。学問を学者だけのものにせず、学校以外にも国民が学べる場が必要であると唱え、新渡戸稲造らとともに「通俗大学会」という組織を作りました。後藤は各地で講演を行い学術普及活動を行いました。

【参考文献】

- 安曇野市HP「安曇野市ゆかりの先人のたち」
- 「安曇野文化第10号 2014冬」安曇野文化刊行委員会
- 「時代を駆け抜けた安曇野人たち」中島博昭 あづみ野FM
- 「平林広人」(信濃教育 平成21年11月号)
- 「祖父 平林広人(私家版)」岩淵文人
- 「夏期大学研究の一視角～社会教育家・平林広人に関する一考察～」中島純
- 「平林広人1886年～1986年」中島健(教育指導時報 2015年10月号)



← 生家
レリ
にある